

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

**ヨハネ4.15」主よ、この水をください...」**

「サマリア人の女性」が生ける水」を飲ませてほしいと頼んだことは、イエスが将来言われた**「求めよ、そうすれば与えられる」**という言葉に従った完璧な例です。マタイ7章7節A、ルカ11章9節 イエスは、以前の言葉ですでに彼女に同じ約束を与えていました。**「もしあなたが神の賜物を知っており、また、だれがあなたに話しているのか(与え主)知っていたなら、あなたはその人に求めたでしょう...」**4章10節 彼女が約束された賜物を求めたという事実は、イエスが言われたように、彼女がすでにイエスとその賜物を与える方であると信じ始めていたことを意味していました。

女性がイエスに求めたことは、彼女がイエスが言っていたことの一部を理解し始めていたことを示しています。彼女はイエスが「生ける水」という贈り物について語ったことが真実だと信じていました。(1) 彼女は渇きが止まり、(2) 心の中に水の泉を持つようになり、もうヤコブの井戸に水を汲みに来なくてもよくなる、というものでした。彼女はこれらのことを望んでいました。イエスは「求めなさい」と言われました。それで彼女はイエスが言われたとおりに願いました。それはとても単純なことでした。

イエスは歴史上最も偉大な祈りの専門家です。三位一体の一員として、祈りを聞いてそれに答えるという永遠の神聖な経験を持っています。神としての経験から、創造されたあらゆる存在が信仰をもって神に呼びかけるとき、三位一体は必ず応えると確信しました。いつでも。

イエスは地上の人間として、父に求め、父から受け取るという生涯を経験しました。この経験から、父に何かを尋ねるたびに、答えを得られることがイエスに教えられました。ですから、**「求めよ、そうすれば与えられる」というのは、イエスによれば**、祈りの最も基本的な約束であり原則なのです。イエスがサマリア人の女性にご自身を現すことを選んだのは、彼女がこのような子供のような信仰で応えることを知っていたからです。そして、彼女はそうしました。私たちも同じように、イエスのこの祈りの約束を信じ、それに従って行動する必要があります。私たちは「求め」始め、それを決してやめないようにする必要があります。

女性の求めと受け取りの例は、信仰には事前に完全な理解は必要なく、誠実な信頼の態度だけが必要であることを示しています。イエスは、彼女のまだ成長途中の信仰を受け入れ、さらに彼女にご自身を明らかにされました。なぜなら、彼女の理解が部分的で不完全であつたにもかかわらず、彼女は従順に行動したからです。彼女はイエスが預言者であると疑っていましたが、尋ねたときはまだ確信がありませんでした。彼女には求める信仰があつたので、イエスはすぐにご自身が預言者以上の存在であることを明らかにされました。

イエスが言われたことを実行する前に、完全な理解を待つべきではありません。実際、イエスは、理解は信仰に先立つものではなく、信仰に続くものであると約束しています。ですから、私たちはイエスが約束し、命じられたすべてのことを「求め続け」、私たちの願いに対するイエスの答えを通して、より完全な理解を与えてくださると信頼すべきです。

その女性はただ、イエスがすでに約束しておられるものを与えてくださるようお願いしたのです。「求め続ける」ための最善の方法は、イエスの命令と約束に集中することです。福音書、そして実際、聖書全体は命令と約束で満ちています。これらは私たちに対する神の意志をはっきりと明らかにしています。神がすでに与えようと決めておられるものを与えてくださるよう神にお願いするなら、私たちはお願いしたものを受け取るこ

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

とを知っています。私たちはこれを絶対に確信でき、完全な自信を持って祈ることができます。あなたの祈りの願いの何パーセントが、神の書かれた命令と約束に基づいていますか？（90%が素晴らしい目標でしょう。）あなたは、聖書で読んだことすべてを、それに従うための祈りの願いに変えることを習慣にしていますか？今日、神にあなたの中で果たしていただくようお願いする必要がある命令と約束は何ですか？

**ヨハネ4:16」わたしはあなたに命じる。あなたの夫を呼んでわたしのところに連れて来なさい。」**

女性はイエスを信じ、約束された「生ける水」を飲ませてほしいと頼みました。もちろんイエスは約束どおりのものを彼女に与えます。しかし、彼女の渴きを癒すには、まず彼女が過去に「飲む」ことに慣れていた罪深い行動パターンをイエスが清める必要があります。彼女の人生を、決して長続きしない偽りの満足で台無しにしていたのは罪でした。彼女を清めた後、イエスは魂を癒すご自身の豊かさで彼女を満たすことができるでしょう。そこでイエスは、彼女の中に変化と清めを生み出すように設計された2部構成の命令を女性に与えました。

まず、イエスは彼女に「行って、あなたの夫を呼んできなさい」と命じました。罪に対処する唯一の方法は、罪をあるがままに認め、罪をあるがままに呼ぶことです。ここで、イエスが明らかにされる真実に正直に対処することが役に立ちます。私たちは、自分の人生におけるそれぞれの特定の態度や罪深いパターンに「立ち向かい」、イエスの目に罪が本当は何であるかという真実、つまり光に同意しなければなりません。私たちは自分自身の罪深いパターンを変えることはできませんが、真実を認めることによって、それについてイエスに同意しなければなりません。彼女は「私には夫がいません」と告白して、イエスを満足させました。

イエスは、私たちの罪を告白するこのプロセスを、神の言葉、つまり「行って」罪と向き合いなさいという命令によって、慈悲深く始めてくださいます。神の言葉の真理が私たちを問題の原因にまっすぐに導かなければ、私たちは神の目に映るものについて「行って」自分の罪と向き合うことは決してできないでしょう。私たちが自分の罪をありのままに名づけて神の言葉に同意したとき、2番目の命令が作用します。

第二に、イエスは彼女に、罪を清めて赦すためにイエスのもとに来るように命じました。「ここに（私のところに）来なさい」。イエスは「世の罪を取り除く神の子羊」です。1.29 罪を告白する目的は、否定的になって非難されることではありません。私たちが決して満たすことができない罪を特定して永遠に取り除き、イエスが私たちをご自身の命を与える豊かさで満たすことです。私たちがすべきことは、罪を手にしてイエスのもとに「来る」ことだけです。そうすれば、イエスは罪を取り除き、その空いた場所を豊かな命の飲み物、泉、川の連続で置き換えてくださいます。

これは神の再循環です。私たちが神に有毒な罪のゴミを持って行くと、神はそれを私たちの手と心から取り除き、神の完全な正義の輝きの中で神自身と置き換えます。

イエスが常に祈りの中で私たちを御前に導くことによってこれを行なうことに注意しましょう。決して遠くから皇帝の警告によってそうするものではありません。御言葉の光の中で自分の罪を名指ししたら、それを直接イ

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

イエスのもとに持って行かなければなりません。イエス以外にこの有毒な廃棄物を処理できる仲介者はいません。イエスがあなたに罪をイエスのもとに持って来るように命じているという事実を励みにして、イエスの赦しの慈悲と恵みの豊かさを受け取りに「来て」ください。

もし彼女が生ける水の賜物」を知っていたなら」、そしてイエスがそれを与える方であったなら、彼女はイエスにそれを求め、受け取るであろうと述べて会話を始めました。16節でイエスは、すべての探求者が真理として受け入れて信じなければならない知識の第二の側面、すなわち私たちの罪の知識とそれを取り除くイエスの救いの力を加えています。

解決しなければならない命に関わる問題がなければ、「救い」はありません。私たちの問題は罪です。私たちは皆、罪の当事者であり、したがって、神から永遠に切り離された状態ですでに「死んでいる」のです。私たちの救世主であるイエスは、私たちをご自身の神性で満たすために、私たちの罪を取り除き、永遠の命という贈り物を与えなければなりません。イエスを知ることは、常に私たちの罪を知ることにつながります。なぜなら、イエスは光であり、そうでなければ永遠に認識されない暗闇に覆われたままになるものを照らし、明らかにするからです。

罪は強い悪臭を放ちます。それは罪悪感です。5度の結婚生活の失敗、それに続く公然の罪深い男性との同棲生活の後、この女性はとてつもない罪悪感に悩まされていました。自分の罪を名指しし、イエスに赦しと清めを乞うのは彼女にとって新たな重荷ではなく、罪悪感の牢獄の鍵を開け、彼女の内にいるイエスの命を豊かに享受できるように解放する鍵でした。

イエスの教えと神の言葉全体は、完全で永遠の赦しという繰り返しの約束に満ちています。実際、イエスの血によって開始された新契約における神の4つの契約の約束の1つは、次のとおりです。 **「わたしは彼らの咎をあわれみ、彼らの罪をもう思い出さない。」ヘブル人への手紙8章12節**

神は、神の慈悲によって御子の血を通して永遠に清められたものを決して忘れないという超自然的な能力を持っています。神がすでに赦した罪を思い出すためには、その罪を清めるためにイエスがすでに払った代価を忘れる必要があり、そのようなことは三位一体の中では決して起こりません。父、子、聖霊は、イエスが流すために皆が激しく苦しんだ血の価値を決して軽視しません。

イエスがすでに牢獄の扉を蝶番から引きちぎり、「あなたの中にある私の正義の自由と喜びの中に出て来なさい!」と手招きしておられるにもかかわらず、私たちがイエスが清めて取り除いてくださった罪悪感にしがみつき、自ら課した罪悪感の牢獄の中で生きるのは、あまりにも簡単なことです。

今日、神の自由と恵みの中に歩み出すとき、あなたはどんな罪悪感を捨て去る必要がありますか? あなたは自由です! 進んで神の豊かさの中に歩み出してください。決して振り返らないでください。そして、神に感謝することを決してやめないでください。

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

**JN 4.17 「あなたが夫がいないと言うのは正しいです。」**

ここでイエスは、2つの励ましの言葉（18節と19節）で、彼女が真実に取り組む意志があることを確認しました。

**断言その1。」「あなたが夫がいないと言ったのは正しい。」**この文で「正しい」と訳されている言葉は、文字通り「良い」という意味です。彼女は良い答えをしました。一見すると、彼女の発言はあまり告白のように聞こえません。彼女は文字通り「私は今、ある男性と婚外の不道德な関係にあります。」とは言っていません。しかし、それが彼女の主張であり、イエス様が求めている承認でもあります。イエス様は彼女に「あなたの夫を呼びなさい。」と命じました。その男性が彼女の夫であれば、すべてはうまくいくでしょう。彼が彼女の夫ではないという事実が罪深さを生み出します。ですから、彼女が「私には夫がいません。」と言ったとき、彼女は自分の現在の生活の罪深さについてイエス様に同意していたのです。そしてイエス様はこれを「良い」答えとして断言しました。

これはイエスの非常に勇気づけられる断言です。罪を「告白する」ということは、文字通り、神が罪について「同じことを言う」ことを意味します。私たちは、神の言葉が神の見解を私たちに明らかにしているので、神が罪と呼ぶのと同じことを罪と呼びます。しかし、神と「同じことを言う」ということは、神の言葉をそのまま繰り返すことではありません。それは心の問題です。

神は私たちの心、私たちが言ったこと、したこと、感じたことのすべてを知っておられるので、私たちが神に近づくときの態度に関心を寄せておられます。私たちが神の前ですべてを喜んで扱い、何も隠さずにいれば、それで十分です。大切なのは、私たちのすべてを神の真理と見解の光にさらしたいという願いと意志です。それがダビデが「**砕かれ、悔いる心**」（詩篇 51:17）と呼んだものであり、**神はその態度を喜んでおられます。この女性はそれを持っていました。ですからイエスは、それを「正しい」または「良い」と呼んで、彼女を高く評価しました。**

**断言その2。」「あなたが今言ったことは真実です。」**4.19B 彼女の告白は「真実」だったので「良い」ものでした。ほとんどの場合、私たちは間違った行動を取ります。それは罪深いことです。しかし、私たちは間違った理由で「正しい」行動もします。これも同様に罪深いことです。罪深い人が実際に「できる」唯一の「良い」ことは、神の本来の善良さの真実に同意することです。残りはすべて神の行いです。それは純粋な恵みです。そして「良い」人はそれを喜んで認めます。この女性は、ヨハネ3.21でイエスが宣言した真実を例示しています。

この二番目の断言にはもう一つ力強いことがあります。イエスは「**あなたが今言ったことは...**」というフレーズで完了形を使いました。これは、彼女が言ったことの影響が永久に残ることを意味します。私たちが自分の罪について神と「同じことを言う」とき、その告白の効果は赦しと清めです。そしてイエスは彼女の罪悪感と非難が永久に取り除かれることを保証しているのです。

**「東が西から遠く離れているように、神は私たちの罪を私たちから遠く離してください。」**詩篇 103 節。神は私たちの罪を二度と思い出さないで、私たちは永久に自由です。私たちが自分の罪について心から神

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

に語る真実は、永遠に影響を及ぼします。なぜなら、その結果は永遠に残るからです。なんと素晴らしいことでしょう。

イエスが、彼に真実を認める罪人を決して威圧したり非難したりしないのは、驚くべきことであり、感動的です。イエスが私たちに少し罪悪感を抱かせるのは、完全に「真実」です。」そのためには死ななければなりません、わかりますか？」しかし、聖書には、神が告解者をそのように扱った例が1つ也没有。イエスは、2節の間にこの女性に2度も賛美と肯定を与えるほど、慈悲深く肯定的です！愛は「**悪を記録しない**」ものであり、私たちの罪を覆い、それを永遠に取り除くことを喜びます。彼の純粋な愛、慈悲、そして恵みの信じられないほどの善良さのために、私たちが彼を愛さずにはいられないでしょう。

イエスはまた、この言葉の中で、サマリア人の女性に神の全知の深さを明らかにしています。ここでは、イエスの全知が持つ4つの意味について考えてみましょう。

まず、すべての人の心に関するイエス

の全知性は、ヨハネの福音書で強調されている点であり、イエスの神性の証拠となっています。人の心、つまり内なる意識は神のみが知っています。神の本質に関するこの断言は、聖書全体にわたってなされています。

の全知性に関する古典的な描写は、ダビデ王の賛美歌詩篇 139 に記録されています。ある意味では、人の心を読む能力は全知性の最も難しい側面です。なぜなら、それは単に私たちの生涯のあらゆる考え、感情、記憶、言葉に関する事実を知り、記録する以上のことを含んでいるからです。神が私たちの内面を知っていることには、私たちのあらゆる考えや行動の真の動機を正確に評価することが含まれます。これは、私たち自身でさえ理解していないことが多い心の側面です。イエスは神であるため、サマリア人の女性の心と人生を完全に知っていました。彼女はその真実の発見の旅に出ています。

第二に、イエスは私たちの心を完全に知っているので、事実を公平に扱うことができます。イエスは「**事実はい...**」と言います。宇宙でイエスのようにそのように言える裁判官や分析者は他にいません。私たちの中で最も優れた人でも、事実のすべてではなく、一部しか理解していません。さらに、私たちの行動の源である動機を完全に知っている人はいません。内面の動機を完全に理解せずに外面の事実を知っていると、常に誤った判断につながります。

パンを盗んで売って儲けるのは一つのことです。同じパンを盗んで他の人に食べさせ、自分は食べないのはまた別の話です。しかし、パンに毒が入っていて、それを食べた人を死なせると知りながらパンを盗む人は、別の種類の行為をしています。これら3つのケースのすべてにおいて、パンが盗まれたことは事実です。しかし、私たちの行動の動機が、私たちの行動に関する外面的な事実の意味を決定します。神は私が挙げた3つのシナリオすべてを同じように裁くことはありません。

イエスは、私たちが考え、感じ、話し、行うすべてのことに関する事実の真の性質を最終的に決定できる唯一の存在です。イエスは私たちを本当に理解する唯一の存在です。

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

第三に、イエスは、私たちが傷つけるために全知全能の力を使うことは決してなく、常に私たちを助けるために全知全能の力を使うのです。これが愛です。イエスは、サマリア人の女性に関する事実に関する知識を使って、彼女を赦し、清め、変容へと導き、イエス独自の神聖な命を無償の贈り物として与えたのです。イエスはこの情報を使って彼女を辱め、破滅させることもできたでしょう。

イエス様と一緒にいれば、私たちはいつも安全です。イエス様は、私たちの性格の中にある本当の問題や課題を完全にご存知で、それを利用することで、私たちが自分の罪深さを前向きに認識できるようにし、私たちをただの遊びとして貶めるのではなく、ご自身のイメージに似せて変えてくださるのです。イエス様の愛こそが、私たちを救うイエス様の働きの揺るぎない動機であるため、私たちはイエス様に完全に身を委ねて、自分の罪を扱い、聖なる者とすることができます。実際、イエス様は、私たちの行動の根底にある動機を真に理解し、無条件の愛によって動かされている唯一の方であるため、罪とその結果から私たちを本当に救うことができる唯一の方です。

の全知には、彼を完璧な救世主にするもう一つの側面があります。それは、彼の完璧な人間性です。イエスは神として、また人間として、私たちを完璧に理解しています。イエスは私たちと同じ罪を犯すことなく、あらゆる点で私たちと同じになりました。イエスが受肉した主な目的の1つは、私たち一人一人の人間としての経験を共有することで私たちを完全に理解し、この経験的知識に基づいて私たちを救うことでした。

罪によって生じたいかなる欠陥もない完璧な人間として、イエスの人間としての感覚と意識は、これまで生きた誰よりもずっと敏感でした。イエスはその敏感さを、私たちが直面するあらゆる人間的経験に取り入れ、他の誰よりも深く理解することができました。神の全知性と完璧な人間的感受性と経験のこの完璧な融合こそが、イエス・キリストを文字通り、無限に、これまで生きた人の中で最も理解力のある人物にしているのです。

この4倍の全知性により、イエスは完璧な救世主となります。イエスは私たちの問題を理解し、すでに同じことを経験しているので私たちの痛みに同情し、すでに実践し、私たちが直面しているあらゆる問題を克服しているので完璧な解決策を知っており、さらに、イエスがすでに私たちのために切り開いた道を従順に歩むときに、私たちに分かち合う無限の力と知恵を持っています。サマリア人の女性がイエスと会話して「この人こそ本当に世界の救世主です!」という告白で終わるのも不思議で**はありません。4.42**

イエスは他の誰にもできないほどあなたを知り、理解していることを決して忘れないでください。あなたに対する限りない愛から、イエスはあなたの生涯のあらゆる考えや感情に注意深く注意を払ってきました。あなたがそうしないときでも、なぜそうするのかをイエスは知っています。そして、イエスはあなたが告白した罪を除いて、あなたについて何一つ忘れたことはありません。

イエスがあなたについてすべてを知るのに永遠を費やしたように、あなたもイエスを知ることが、今日のあなたの人生で最も重要な優先事項です。イエスは私たちの完璧な救い主です。私たちはそれに応じてイエスを信頼する必要があります。

**ヨハネ4.19」先生、私はあなたが預言者であることを認めています。」**

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

この会話は、ヨハネによる福音書におけるイエスの「認識場面」の代表的な例の1つです。これは、すべての弟子がイエスの救いの神性と働きを認識し、信じるようになる過程の例です。ヨハネによる福音書1章から12章は、イエスとの一連の「認識場面」であり、イエスは1回の会話で、人がイエスを信じるに足るほどの主権を明らかにしています。

認識の場面には2つの要素があります。まず、イエスは啓示者であり、着実に自分自身を明らかにしていきます。次に、「知覚者」の役割があります。知覚者は、イエスを理解するにつれてイエスを「見る」または「認識する」ようになり、最終的には主であり神であるイエスに完全な信仰と献身を抱くようになります。私たちは、神から啓示された分だけしか神について知ることができません。なぜなら、私たちは自分で神を認識することができないからです。

サマリアの女はこう言いました。「**私はあなたが...であると感じています。**」彼女は現在形を使っており、イエスがどのような方であるかを「見る」または「感じる/理解する」過程にあることを示しています。実際、彼女はヨハネの福音書全体を通してイエスのご自身について明らかにしたことに反応する最も鋭敏な罪人です。

サマリアの女は、私たちがイエス様のご自身を現された完全な栄光の内に「見る」ときに私たちの中に起こる完全な変化の素晴らしい例です。彼女はすでにイエス様を認識する段階を3段階に進めていました。「**あなたから先生**」、そして今度は**預言者**」です。間もなく彼女はイエス様を「**私がしたことすべてを私に告げた人**」、次に「救世主」、そして最後に「世界の救い主」として見るでしょう。これらすべては、**イエス様が最初にご自身を現されたように、「御霊の生ける水の賜物を与える者」として見ることに集約されます。**

イエス・キリストについての知識が、たった一つの会話の中でこのように驚くほど成長するのは、イエスが1. 50-51で約束されたとおり、神の究極の啓示者であるためです。

「啓示者」が宣教活動で明らかにした最も重要な真理をとらえており、洞察力のある読者は誰でも、サマリア人の女性を含め、イエスを肉体で知っていた誰よりも、イエスを「認識」し、よく知ることができるのです。

さらに、イエスは私たちに、内在する絶対的な教師、そしてイエスに関するすべての真理を経験的に導く者として、御霊を与えてくださいます。ヨハネ 14:26-27。最後に、イエスはイエスの戒め(1)」を守り、(2) それを守って従順さを増す生活を送るすべての信者に、個人的にご自身を現す」と約束しています。14:21ですから、ヨハネの「福音書にあるこのような認識の場面」は、イエスを信じる救いに至る信仰に至る過程の例であるだけでなく、生涯を通じてイエスの知識を深め続けるという、継続的な弟子としての生き方を描いたものでもあるのです。

イエスが明らかにしたこと、すなわち聖霊が私たちの内に働くという約束のおかげで、すべての信者は今生でイエスを深く知る機会が等しく与えられています。イエスは血を流して新しい契約を批准し、次のように約束しました。「**そして彼らはもはや、その同胞や兄弟に、主を知れと教えることはなくなる『。なぜなら、彼らはみな、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからである。』**ヘブライ人への手紙 8

## DJN #045 ヨハネ4.15-19に関する注釈

:17福音書に明らかにされたイエスの言葉と働き、イエスの聖霊、そして私たちの従順さによって、すべての信者がこれを等しく実現できるのです。